

- 年頭所感 -  
学会員一人ひとりの英知を結集できる1年に

一般社団法人日本社会福祉学会 会長 空閑 浩人(同志社大学)

平和、自由、平等、尊厳、人権、幸福…。

社会福祉学がその歴史のなかで、変わらず大切にしてきた言葉です。そして私たちが絶対に手放してはいけない言葉です。2022年ほどこれらの言葉の意味やかけがえのなさを考えた年は、私にとってありませんでした。そして、この21世紀の時代にあっても、人類が国家間の争いを止めて、解決への道筋を見出す方策を獲得していないことを実感させられた1年でした。その国や地域で暮らす市井の人々のささやかな日常が、戦争によって理不尽に壊され、奪われていく状況に、胸を痛め続けた1年でした。ウクライナやロシアでの戦争の犠牲者に思いをはせ、このようなことが未だ続く状況が一刻も早く終わって欲しいと願いつつ迎えた、2023年のはじまりでした。

あらためて、社会福祉学とは人々と社会の福祉を思想的、理論的、政策的、そして実践的に追求し、実現する学問であり、冒頭で挙げた言葉で示される価値観に基づく連帯と行動の学問であると考えます。戦争が続く国外の状況だけでは決してありません、国内に目を向けても、このような実践の学問としての社会福祉がますます求められている状況にあると考えます。

日本では2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大以降、様々な社会問題や生活問題が顕在化しました。私たちが暮らす社会は依然として、格差や貧困、差別や分断の問題を抱える状況のなかにあります。失業などによって機会を奪われ、社会的な孤立状態に陥り、生活困窮の状態にある人々や世帯への支援が、政策的にも、実践的にも、より一層求められている状況にあります。そして、先の見通しが定かでない、言い知れぬ不安感が漂うような空気感のなかで、たとえばSNS上で見られるような他者への誹謗中傷や攻撃的な言葉の発信が後を絶たないなど、人々がゆとりや寛容さ、他者への想像力を失い、殺伐とした社会の雰囲気を感じます。

人と社会の幸せを願う社会福祉学とは、多様な人々のつながりを通して、人間の社会性や生活の豊かさを支える社会の実現や維持に貢献する学問でもあると考えます。そして、コロナ禍で制限されてきた人々の対面での直接的な交流や対話を取り戻し、人々のゆとりや寛容さの回復に貢献する学問でありたいと思います。人々の福祉を保障する地域のあり方や社会のあり方を議論する学問であるとともに、身近にいる一人の苦しみや生きづらさに気づき、その声に耳を傾け続ける学問でありたいと思います。人々の間に壁をつくり、隔てる言葉ではなく、多様な人々をつなげて包摂する言葉を、数多く生み出して発信できる学問でありたいと思います。

さて、「学問」をめぐる昨今の状況としては、2022年12月に内閣府により公表された日本学術会議の改革案と、それに対する学術界の対応が挙げられます。2020年9月に、会員候補者の任命を首相が拒否するという事態が生じました。このことは学問の自由を脅かす重大な問題として、日本学術会議をはじめとして多くの学協会が声明を発出しました。今回示された改革案についても、学術会議

の独立性を損なうとともに、その存在意義にもかかわる問題であるとの懸念が示されています。本学会としても、前回同様に学術会議をはじめ多くの学協会と同じく、意見を表明するべく、年をまたいで対応してきているところです。この問題は、学会としてはもちろんですが、社会福祉学の研究や教育に携わる一人として、学問としての社会福祉に携わる者の責任や倫理について、私自身のこととしても考えていきたいと思っています。

今日の社会福祉学は、継続してあるいは新たに取り組むべき様々な課題を抱えています。そのようななかで、昨年10月に開催された秋大会は、3年ぶりの対面形式の開催（オンラインも兼ねたハイブリッド形式での開催）となりました。参加した多くの会員でにぎわう会場に、懐かしさと喜びを感じた2日間でした。シンポジウムや自由研究発表等でなされた多くの議論だけでなく、大会期間中の会員同士の交流、さまざまな場での雑談のなかにも、多くのアカデミックな刺激を得て、豊かな余韻を感じられた機会となりました。今後の本学会の様々な取り組みや企画のなかで、オンラインの便利さや長所は上手く活用していきながらも、対面による直接的な交流の場や議論の機会も、積極的に取り戻していきたいと思っています。

日本社会福祉学会は、1954年5月9日に設立総会が大阪で開催され、同日第1回大会が行われました。そして、昨年第70回という節目となる大会を終えたところです。複雑で不安定な時代である今こそ、私たちは先人たちによって築かれた歴史とその知にあらためて学ぶことが必要だと思っています。そして、今のこの社会を生きる人々が抱える生活問題や社会問題とその現実から目を背けることなく、私たちが暮らす地域や社会の将来をも見据えつつ、学会の様々な活動を通して、会員の皆様の英知をより一層結集できる1年になればと思います。「隗より始めよ」を自分に言い聞かせつつ、高い倫理観をもって、一層精進して参ります。

学会員の皆様の、この1年のご健勝を心からお祈り申し上げます。

2023年も、本学会の各事業へのご支援とご協力のほど、何卒よろしくご願い申し上げます。